

2025 年度 一般社団法人日本くすり教育研究所 事業報告

概要

青少年への医薬品教育、薬物乱用防止教育を中心に、飲酒・喫煙の害、アンチドーピング教育、さらには薬剤師を主とする医療従事者、教員への啓発活動など、会員の専門分野での活動の充実に取り組んだ。ZOOM によるオンラインでの研修会開催も実施をした。また、正会員向けの教材を充実させることにより会員数の増加に取り組んだ。

1. 会員数の増加のための広報活動と正会員の活動への積極的参加を呼びかけた

2026/3/31 現在 メルマガ会員： 2,174 名(前年：2,061 名)
 正会員： 120 名(前年：136 名)
 賛助会員： 3 社 (5 口) (前年：3 社 5 口)
 (株式会社小学館集英社プロダクション、佐藤製薬株式会社、一般社団法人東京都学校薬剤師会)
 企業からの寄付金：なし

2. 学校薬剤師との協働活動の充実を目指した。

①『おくすり教育推進協議会』を 3 回開催した

日本くすり教育研究所と東京都西武薬剤師会の共催により『おくすり教育推進協議会』を 3 回開催し、合計 92 名が参加した。

* 第 14 回おくすり教育推進協議会 (参加者 36 名)

日程：2025 年 7 月 12 日 (土)

会場：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

* 第 15 回おくすり教育推進協議会 (参加者 18 名)

日程：2025 年 11 月 1 日 (土)

会場：ルネこだいら (小平市民文化会館) レセプションホール (B1)

* 第 16 回おくすり教育推進協議会 (参加者 38 名)

日程：2026 年 3 月 14 日 (土)

会場：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

※アンケート結果 (別紙資料 1)

②東京都学校薬剤師会 (賛助会員) の教材 (薬物乱用防止) 改訂に参画した。

・教材 (改訂版「自分を大切に～心と体を守るための薬物乱用防止教室～」) を会員に配布 (2025 年 8 月)

・研修会の開催 (2) 子供に寄り添う薬物乱用防止教室と今後求められる在り方～薬物乱用防止教室 (改訂版) から考える～ (講師：加藤) (2025 年 11 月 15 日)

3. ホームページの充実を図った

- ・ホームページコンテンツ（ニュース・活動報告など）を順次更新した。
※アクセス数 PV（閲覧件数）：42,094、UU（訪問者数）：22,054
- ・会員に向けて毎月メールマガジンにより活動報告や情報提供を行った。
- ・正会員向けのダウンロード教材を追加・更新した。
- ・会員向けの動画コンテンツを掲載した。

4. 医薬品教育などの健康教育を実施した

- ・学校における健康教育（医薬品教育、薬物乱用防止教育など）
- ・2025年度に加藤代表理事が指導した児童生徒の人数は1,554人【別紙資料（資料2）】
- ・一般市民への健康教育・指導者研修等の活動
2025年度に加藤代表理事が指導した回数は10回【別紙資料（資料3）】
- ・登録販売者研修のための教材作成（監修）・報告会

5. 令和7年度薬物乱用防止啓発訪問事業（厚生労働省委託業務）

令和7年度薬物乱用防止啓発訪問事業（厚生労働省委託業務）（(株)小学館集英社プロダクションパブリックサービス事業部）について、ホームページでの活動内容や、資材の入手法、講師としての参画方法などを紹介した。

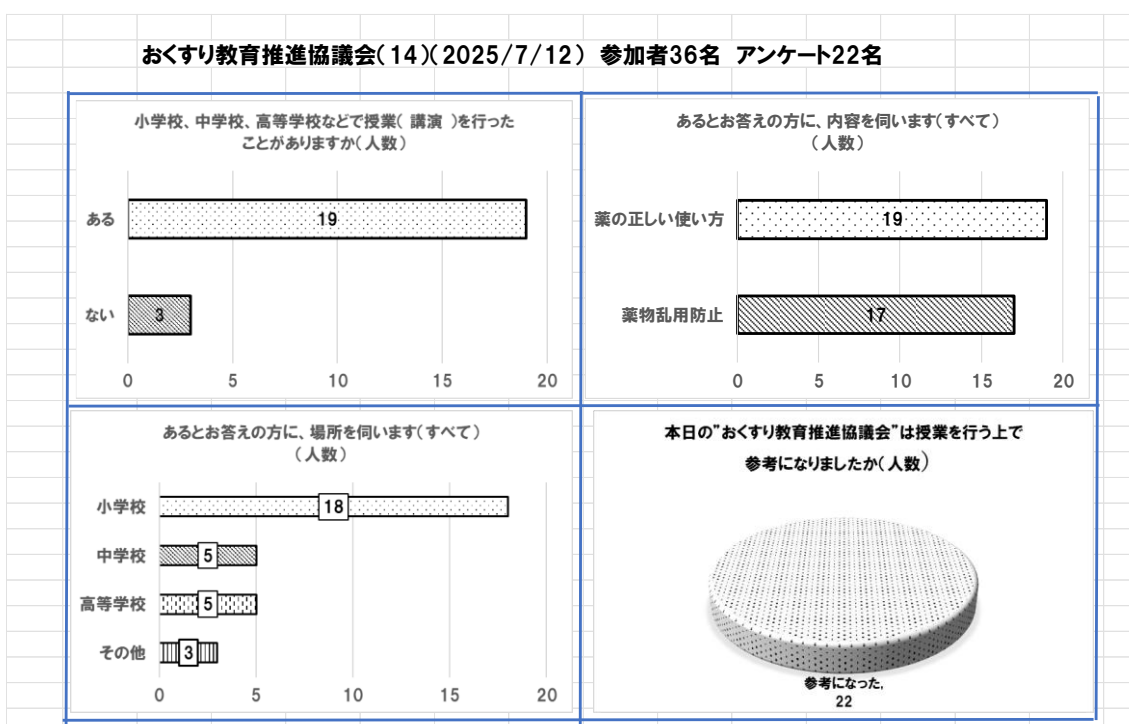
6. 他団体・企業からの依頼、相談対応

- ・ネットパイロティング株式会社の各種講座の監修
- ・官公庁や行政からの薬物乱用防止に関する問い合わせや相談に対応
- ・保健指導リソースガイドのトピックス・レポートのコーナーにコンテンツ「働く人に伝えたい！薬との付き合い方」を掲載した。

別紙資料

▼【資料 1】おくすり教育推進協議会 アンケート結果

おくすり教育推進協議会（14）アンケートまとめ



アンケート・記述

【内容・構成に関する希望】

- ・これからの警察とのコラボ、進捗状況、実際の活動が知りたい(2)。
- ・実際の授業でどんなパワポ、動画を使っているのか知りたい。
- ・養護の先生とのコラボはしているのか、具体的なお話を聞きたい。
- ・実際に行っている方の経験談を聞きたい。
- ・日々情報が変わることもあり、今まで出てこなかった子供たちからの質問や疑問の声があれば、教えてもらいたい。
- ・薬物乱用に関する最近のトピックスをご講義いただければと思う。
- ・最近世間で話題になっているフェンタニルについての情報など、大麻も含め、医療用があるから安全という世間一般の認識へのアプローチについて知りたい。
- ・実際の現場での子どもたちの声を聴いたアンケート集計を広範囲で実施できないものか。

- ・少人数で意見交換をする時間が欲しい。
- ・他の地域の実際の授業内容は参考になりました。今後も具体的な活動内容の交流が出来る
と良い。

【感想・意見】

- ・薬物乱用、がんの講習会、共に大変勉強になりました(2)。
- ・ガン授業は、参考になりました(2)。
- ・薬物乱用防止教室の警察とのコラボについて考えていきたいと思いました。
- ・危険ドラッグのお話は、知識の整理ができ、現状を理解できたので助かりました。
- ・実体験を通したお話を聞ける機会も少ないので貴重な体験でした(2)。
- ・いろいろな立場やエリアからの方が集まっていて、情報を交換できるのが素晴らしいと思
いました。
- ・情報が交錯する現代において、私たちは正しい内容を発信しなければいけないと、実感し
ました。
- ・保健所の活動について詳しくうかがえたのはよかったです。目指すところが一緒なのでど
んなことをしているのかを知っていることは大事です。
- ・リモートは参加しやすいです(4)。
- ・実地、リモート開催のハイブリット開催だと参加しやすいかと思われます(2)。
- ・リモート開催だと遠方の地域の実状も聞けることに有意義な気がしました

【課題】

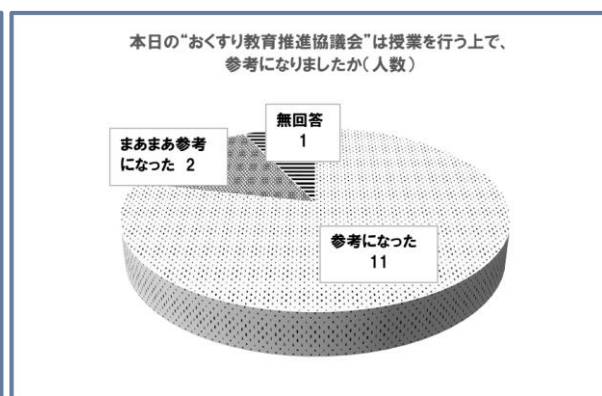
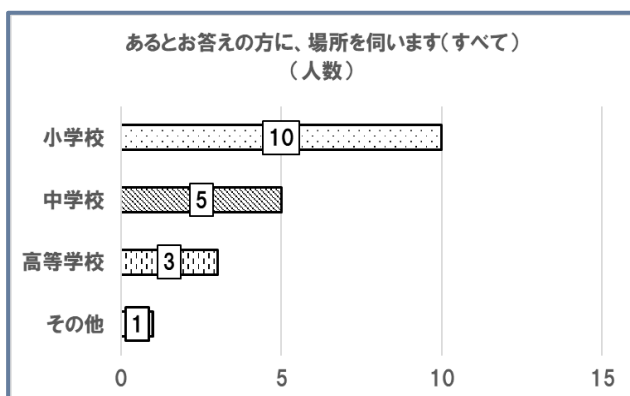
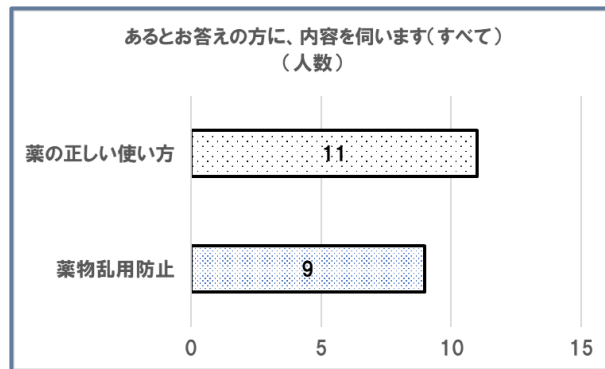
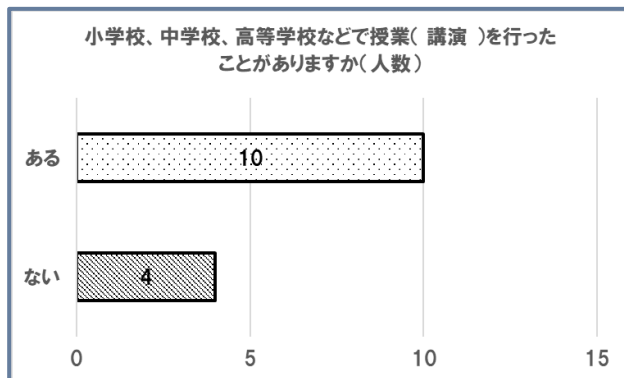
- ・オーバードーズ対策を年齢別にどう行うか
- ・がん教育について、保護者で罹患している方もいるので授業等ではそのへんの配慮も必
要。
- ・改めて薬剤師という立場から話せることを考えたほうがよいのではと思っています。
- ・なかなか新しい小学校に代わってから講演の機会がありません。
- ・警察とのコラボという話も今後考えていこうかと思えます。

【その他】

- ・今回の実践発表を聞かせていただき、児童・生徒へのアプローチの方法を学ばせていただ
きました。参考にさせていただくことが多くあり、京都でもお話しいただきたい思い
です。
- ・学校薬剤師の活動に興味を持ち参加させて頂きました。私が小中高時代にはがん教育やオ
ーバードーズの授業はなく、時代の流れに合わせて変化してきていると感じました。考
慮が必要なことがあったり年齢によって伝え方や授業の進め方に工夫したりしている
ことを感じました。警察や学校との内容のすり合わせなど大変なこともあると思いま
した。貴重なお話を聞けてより薬剤師と学校の関わりを知ることができました。ありが
とうございました。(参加学生)

おくすり教育推進協議会（15）アンケートまとめ

（回答者数 14 名）



【記述】

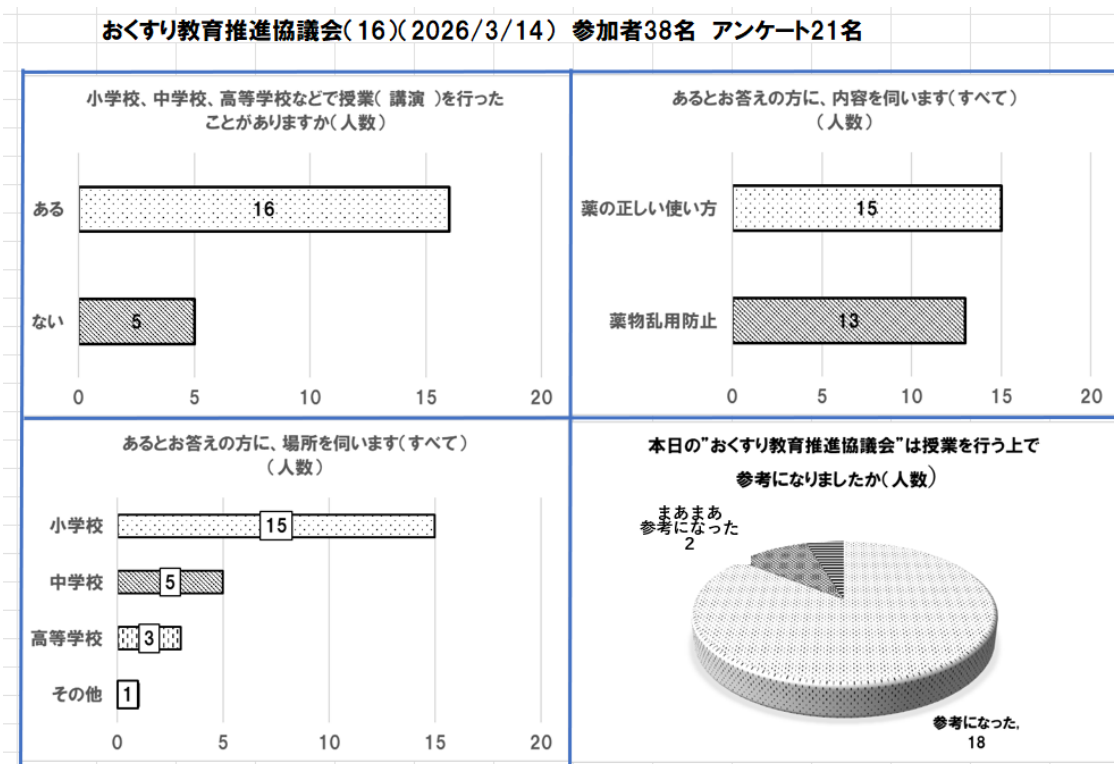
3. 次回以降の“おくすり教育推進協議会”の内容・構成などについて、ご希望をお知らせください。

- ・実際に行っている方の経験談を聞きたい。
- ・加藤先生や船田先生の話をして聞きたい。
- ・最近のトレンドについて、子どもたちが興味を持つことについてどのように授業にとり入れているか知りたい。
- ・ディスカッションが良かったです。船田先生、加藤先生のお話もとても参考になりました。
- ・質問への返答・内容について知りたい。
- ・グループワークだけより基調講演があったほうが良いと思う
(船田先生は毎回でもよいと思います)。

4. ご意見、ご感想などございましたらぜひお聞かせ下さい。

- ・本日の難問については考えまとめる時間になりました。ありがとうございました。
- ・今回の内容は実践的で勉強になりました。
- ・薬物乱用防止を考える時に、悩みを聞いてあげる場所作りも考えたい。
- ・最後の加藤先生のお話はモチベーションが UP しました。学びを還元できるようにしたいです。
- ・船田先生のお話で、これからの学校薬剤師の可能性や活動について考えることができました。
- ・有意義な協議会に参加させていただきありがとうございました。
- ・今後は学生（年齢が近い）の参加も。
- ・大変勉強になりました。質問に対してふわっとした答えと、明確な数値（覚醒剤の値段）を合わせて話すことで、より具体的に想像できると思いました。取り入れていきます。
- ・まだ学校薬剤師になったばかりで、今回色々勉強になりました。子供へのおくすり教育奥が深く大変そうです。

おくすり教育推進協議会（16）アンケートまとめ



アンケート（記述）

—希望—

- ・リモート開催が良い。
- ・リモート開催だと参加しやすい。
- ・リモートに慣れていないため、対面の開催ですと有難い。
- ・今後も両方の特性を活かした zoom、対面の交互開催が良い。（zoom 開催は遠方の方も参加でき、活動の様子を聴ける、意見交換を行うには確実に対面式の開催が望ましい）
- ・小学校低学年、及び幼稚園などで、お薬教育をされている先生のお話を聞きたい。
- ・実際に行っている方の経験談を聞きたい。（特に新しい取り組みの成功例）
- ・アンケートの結果や年代による違いなどが知りたい。
- ・いろいろな取り組みのお話、現在進行形で聞きたい。
- ・視覚的にわかりやすく伝える方法。やさしい言葉でわかりやすく伝える方法。
- ・学校薬剤師 1 年目のため、他の薬剤師の方々が実際の指導内容・取り組みを伺う機会が欲しい。
- ・オーバードーズに関する最新データを共有して薬剤師としてできることを考えたい。
- ・ゲートキーパーとしての役割を意識した取り組みの実例を知りたい。
- ・ゾンビタバコや大学生の大麻使用の、具体的なきっかけを聞きたい。
- ・防災で、学校と連携している方のお話を聞きたい。備品の置き場所がなく、分散しているので、どのように管理しているか聞きたい。

- ・私は小学校の学校薬剤師です。先生方と協働し、長く「薬育」に取り組んでまいりました。
私は、東京大学の TICPOC に参加し、これからの「薬育」のあり方について学びを深めています。ここでの学びは、これまでの活動の前提を根本から見直す大きなきっかけとなりました。
従来の「ダメ。ゼッタイ。」という一律の禁止教育だけでは、オーバードーズ (OD) などの苦痛の中にいる子どもたちを救えないばかりか、むしろ「正論の暴力性」によって彼らを追い詰めてしまう懸念があると感じたからです。
「どうしてそんなことするの？」ではなく「この子に何があったのか」を問い直す TIC の視点。これを土台とした「自他への思いやりの教育」の力によって、従来の一次予防教育から自殺予防教育（ゲートキーパー育成）へと合流させていく。これが私の考える「これからの薬育」です。いかに現場の活動として形にするかが、現在の私の大きなテーマになっております。
活動を続ける中で、この「TIC の視点」をいかに関係者や教育現場へ普及させていくかが大きな課題であると感じております。教育現場への効果的なアプローチや、他地区での事例など、皆様の知恵を拝借できれば幸いです。

—意見・感想—

- ・災害医療の講演は実際に直面している問題の指摘など詳細に聴けてとても勉強になりました。いざという時の具体的な内容の中でも、特に印象に残ったのは「心の薬剤途絶」という言葉です。
- ・細谷先生のご講義で、改めて学校薬剤師が、避難所となる学校での役割がよくわかりました。
- ・担当校（高校）では、入学時に生徒全員に、個人の災害ボックスを渡されます。（学校内で保管）今年度、災害ボックスの中に何が入っているか生徒自身が、確認して実際に使用してみた感想をまとめられていました。（学校保健委員会資料）見させていただいて、学校薬剤師が避難所での衛生管理も担うこと。また状況に応じてしなければならないことなどを、少し学校と共有することができました。今まで、担当校と、防災についてゆっくり話したことはありませんでした。まだまだ、試行錯誤の段階ですが、これからも学校の先生方と情報共有しながら、すすめていけたらと思います。
- ・今回の冒頭の講演は学校が防災拠点であるということを再確認させてくれて大変刺激になりました。
- ・災害医療のお話は薬剤師として何をするかということを考えさせられました。
- ・学校のできることに加えて、いざとなったらどうするか、近い将来のことかもしれないと思うと、暗い気持ちに… でも考えておかないと何もできない。
- ・細谷先生に全体で質問出来ななかったですが、災害が発生したときに、急遽派遣する場合、本来の仕事に穴を開けることになりませんが、有給を使って休むのか、災害派遣する際には、ボランティアと行っているのか、災害が起きたときに賃金の事は後回しだと思いますが、賃金に関する就業規則がどうなっているのか知りたいです。

上記の件、経営者の立場も持っているので参考にさせていただきたいです。

災害時処方への対応に関しても詳しく理解できていません。薬局としての理想的な行動を教えていただきたいです。何を優先すべきか迷います。家族、従業員、定期的にいらしている患者さん等。

- ・設問を設定していただき、考えながら進められたのでとてもわかり易かったです。
- ・講座の内容構成について、細谷先生の講義が大変参考になった。
- ・概念は理解でき、大変参考になりました。

ただし、実際に被災した場合、連絡系統・手順が示されておらず、講義頂いた内容を実現するには理想と現実の乖離を感じました。

例えば、市役所・各学校の連携、学校薬剤師が担当する学校に赴いた時に誰に最初に指示を仰ぐかなど、具体的手順を立てるの必要性を感じております。これら実現のため、今後も連携を宜しく願います。

- ・小平市学校薬剤師会として、今後防災対策を考えていくにあたり、たいへん勉強になりました。平時の段階から、まず学校が避難所になることを意識することから始まるのがわかりました。細谷先生のまとめや加藤先生からの叱咤激励にあったように、「学業目線での防災、減災を考える」ことを、皆で取り組んでいきたいと思っております。
- ・薬に対する保護者の考え方や習慣が生徒の価値観に影響するため、保護者への関わりが必要だと考える。
- ・AI 音声の使用は試してみたいと思いました。実際、音声が変わることで一回集中し直すことができるので、講義などで使用してみたいと思います。
- ・加藤先生をはじめ、子どもたちへの薬育に日々情熱を注がれている皆様方と切磋琢磨し、より良い”薬育”活動に貢献していければと願っております。
- ・明日からのやる気に繋がる学びをありがとうございました。
- ・のんびりした自分に喝をいれました。ありがとうございました。
- ・本日は、学校薬剤師と災害についての卒業研究を実施させてもらい、御縁で参加させていただきました。学校薬剤師だけでは避難所での活動にも限界があると思うので、DHEATなど保健所や学校、自治体とも良い連携を取れていければより良く活動ができるようになるのかと思いました。まだ、学生ですが社会に出たら学校や地域との関わりを大切にしていければと思いました。
- ・毎回 zoom の際に気になることですが…始まる前に諸注意の文書での告知、さらには福田先生からアナウンスもあるにもかかわらず、ミュートにしなくて雑音が入る方、名前表示が通称だけで所属の分からない方が存在するのでしょうか。中間のあたりにでも再度アナウンスを入れてみるのはいかがでしょうか。

【資料2】小・中・高等学校における医薬品教育など青少年の健康教育に関する活動報告

	実施日	分類	内容分類	場所	学校名・団体名	対象	人数
1	20250405	* 授業⇒	薬物高大	東京都	東京薬科大学生命科学部	1年生	240
2	20250502	* 授業⇒	薬物高大	東京都	都立山吹高校定時制	1年生	60
3	20250520	* 授業⇒	薬物高大	東京都	学習院大学	1年生	85
4	20250621	* 授業⇒	薬物小中	東京都	日野市立平山小学校	6年生	110
5	20250702	* 授業⇒	薬物高大	東京都	女子美大付属高校	1年生	210
6	20250912	* 授業⇒	薬物小中	東京都	千代田区立和泉小学校	6年生	64
7	20250924	* 授業⇒	薬物高大	東京都	学習院高等科	1年生	200
8	20251023	* 授業⇒	くすり小中	東京都	豊島区立朝日小学校	6年生	48
9	20251023	* 授業⇒	薬物小中	東京都	豊島区立朝日小学校	6年生	48
10	20251027	* 授業⇒	薬物小中	東京都	渋谷区立猿樂小学校	6年生	70
11	20251030	* 授業⇒	薬物小中	岐阜県	郡上市立白鳥中学校	2年生	95
12	20261218	* 授業⇒	薬物高大	東京都	職業能力開発短期大学校	東京建築カレッ	35
13	20260124	* 授業⇒	薬乱	小学校	豊島区立池袋小学校	6年生	44
14	20260220	* 授業⇒	薬乱	中学校	町田市立木曽中学校	1年生	90
15	20260225	* 授業⇒	薬乱	小学校	渋谷区立千駄谷小学校	6年生	53
16	20260226	* 授業⇒	薬乱	小学校	千代田区立麴町小学校	6年生	102
	合計						1554

【資料3】指導者研修等の活動報告

	実施日	分類	内容分類	場所	学校名・団体名	対象	人数
1	20250608	* 講演⇒	薬物指導	京都市	学校薬剤師研修会	学校薬剤師	80
2	20250823	* 講演⇒	薬物指導	東京都	健康行動教育科学研究所	指導員	70
3	20250918	* 講演⇒	薬物指導	埼玉県	埼玉県薬務課	指導員	400
4	20251030	* 講演⇒	薬物指導	岐阜県	岐阜県教育委員会	指導員	30
5	20251112	* 講演⇒	薬物指導	東京都	中野区保健所	指導員	30
6	20251113	* 講演⇒	薬物指導	島根県	島根県学校薬剤師会	学校薬剤師	150
7	20251115	* 講演⇒	薬物指導	東京都	都学薬研修会	学校薬剤師	150
8	20260306	* 講演⇒	薬物指導	浜松市	静岡県庁薬事課	指導員	85
9	20260315	* 講演⇒	薬物指導	沼津市	静岡県庁薬事課	指導員	105
10	20260315	* 講演⇒	薬物指導	静岡市	静岡県庁薬事課	指導員	120
	合計						1220